

外国語－3（第1学年） 他人を紹介するスピーチの原稿を書く事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「In Your Words ○○さんを紹介しよう」

2 単元の目標

- 家族や友達、部活動の先輩、あこがれの人などを紹介する文章を書く。
- 書いた文章を基に当該人物を紹介するスピーチを行う。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。
- 【外国語表現の能力】
- ・内容的にまとまりのある文章を書くことができる。
 - ・与えられたテーマについて自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。
- 【言語や文化についての知識・理解】
- ・正しい語順や語法を用いてスピーチ文を構成する知識を身に付けている。

4 教材

本単元は、家族や友達、部活動の先輩、あこがれの人などを紹介する文章を書かせ、その文章を基に当該人物を紹介するスピーチを行うという内容である。第三者の紹介は、日常生活において実際に行われることが多く、実用性が高いものである。したがって、第三者を紹介する時に必要な表現やその使い方を学び、実際に英語で第三者の紹介ができる力を養う。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全4時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介に必要な新出語（句）を学習する。 ・紹介人物のプロフィールを作成する。 ・過去のスピーチ原稿例を読み、文と文のつなげ方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介に必要な情報は何か考えさせる。 ・具体例を挙げ、文と文のつなげ方に着目させる。
第二時 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・プロフィールを基に、スピーチ原稿を作成する。 ・添削を受ける。 ・必要に応じて原稿を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう組立てで文章を構成したらよいか考えさせながら原稿を書かせる。 ・修正の必要性を理解させる。
第三時	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿を完成する。 ・原稿を暗記して、スピーチの練習をする。 ・ペアでお互いにスピーチを聴き合う。 ・ペアからの意見を参考に再度練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって発表できるように繰り返し練習させる。 ・人の意見を参考に、よりよい発表ができるよう工夫させる。
第四時	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1分以内で人物の紹介スピーチを行う。（絵や写真も使用） ・発表者のスピーチを聴いて、内容や発表に関する簡単な評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・visual aidsも使用しながら、わかりやすく発表することを心がけさせる。 ・人の発表をよく聴かせる。

(2) 本時の学習（2/4時間）

目標：前時の学習で作成したプロフィールを利用して実際のスピーチ原稿を作成する。
展開：

- ①生徒が原稿作成中、机間指導しながらよい例や改善の必要な例を収集し、各自の原稿の推敲に役立つよう、電子黒板を利用して生徒に提示、指導する。
- ②原稿を各自で推敲させ、さらにペアワークを通して互いに気付いた点を指摘させる。
- ③ALTとともに添削し、清書をして発表原稿を完成させる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本指導事例は、学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くことの(ア)(イ)(オ)の指導事項に関連する内容となっている。

まず、スピーチの原稿を書くことで、必然的に(ア)「文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。」が求められる。また、発表だけでなく、原稿自体も「外国語表現の能力」として評価の対象としていることから、正しく書くことは大切である。

次に、内容を正しく伝えるには、(イ)「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。」も必要である。これは、英語の場合、誤った語順で構成された文では、読み手や聞き手に正しく内容を伝えることができないことが多いからである。本事例では、原稿を書き終えた時点で、ALTに文章を添削してもらった活動や、ペアの相手に発表内容を聞いてもらう活動も取り入れているが、指導者や他の学習者からチェックを受ける前に、学習者自身が自分で推敲できる力を養うことも大切だと考える。

さらに、(オ)「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」とも密接に関連する。人を紹介するには、その人物の特徴や自分との関係など、比較的多くの情報を読み手や聞き手に伝える必要がある。そのためには、複数の文で文章を構成しなければならない。したがって、最初にどのような文で書き始め、どのように文をつなげ、いかに締めくくるといった、文章を構成する力が大切になる。言語的には、必要に応じて、接続詞や副詞なども使って、順序、つながり、論理などを明確にすることも求められる。また、何度も同じ表現を使うことを避けたり、文と文のつながりを保つために、代名詞などを使って語を置き換えたり、他の名詞で表現したりすることも、この単元での指導事項である。

【言語活動の充実の工夫】

本時では、本時の目標を実現するために、以下の4点で言語活動を工夫・充実している。

- 原稿を書き始める前に、紹介する人物のプロフィールを作成して、どのような内容を紹介するか具体的に列挙する活動を取り入れた。いきなり原稿を書き始めると、文を正しく書くこと、文と文の順序を考えること、どのような事柄を紹介するかという内容に関する点、など多くの事柄を同時進行させながら書かなくてはならない。このような負荷を軽減させるために、原稿の前段階として、箇条書きでプロフィールを作成することにした。
- 紹介する内容や、文と文のつなげ方に着目させるために、過去のスピーチ原稿を分析する時間を確保した。これは、何も無いところから原稿を考えさせるのではなく、モデルを与えることによって、「文章を書く」という言語活動に関わる学習者の負荷を少しでも軽減できるためである。また、分析の後、気付いた点について生徒から発表を求めたり、指導者が具体例を挙げるなどして確認したりすると、学習者全員で大切な情報や注意点を共有することができ、一層効果的である。
- 指導者の指導だけでなく、学習者同士の相互確認という活動を取り入れた。会話などの即興性の高い言語活動と異なり、スピーチでは、原稿を推敲したり、発表を練習したりすることができる。そのため、自分の原稿をまず自分で推敲し、次に学習者同士で、改善した方がよいと思われる点について、アイデアを出し合い、最後に指導者のチェックを受けるという3段階の推敲を行った。このような段階を経ることにより、正しい文を書いたり、より適切な形で文と文をつなげることができるようになる。また、ともすると「書くこと」の言語活動は、学習者が一人ですっと考えるという活動になりがちである。しかし、このような学習者同士の相互確認という活動を取り入れることにより、学習にめりはりがつき、協力や気付きなどが生まれ、思考・判断を養う上で大切なステップになると同時に授業が活性化することも期待できる。
- 原稿の作成中、指導者が電子黒板を使って、参考例や誤りやすい点などを具体的に提示した。電子黒板の特性上、生徒のノートを拡大して提示できるので、生徒は原稿作成中にも、必要に応じて文章を修正したり、誤りを減らしたりすることができる。このように、電子黒板の使用は表現を見直すという点でたいへん有効である。なお、この場面においては、「うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。」の評価規準に照らし、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を活動の観察によって評価する。そういった意味で、「書くこと」に対して生徒が意欲的に取り組むことができるような工夫にもなっている。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：② (※分類番号はP5表参照)